

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより

もくじ

- ・企画展「幕末の陶器商西浦屋」・・・1
- ・平成28年度カワニナ生息数調査結果・・・3
- ・大針屋作7・8号窯発掘調査・・・2
- ・文化財防火デー関連・・・3
- ・中学生の職場体験・・・2
- ・平成28年度文化財講座・・・4

企画展 多治見市有形文化財指定記念

幕末の陶器商 西浦屋

開催期間：平成29年3月13日（月）～8月25日（金）

開催場所：多治見市文化財保護センター展示室

平成28年4月25日、西浦家文書にしうらけもんじょが多治見市有形文化財に指定されました。西浦家文書は江戸時代中期から大正時代までの3821件の古文書こもんじょです。多治見村政に関する古文書そんせいのほか、窯業関係の古文書が数多くみられます。その多くはすでに「多治見市史」や近隣自治体の市史でも紹介され、幕末から明治時代的美濃焼研究の基礎資料となっています。

西浦家文書を代々保管してきた西浦家は5代まで圓治えんじを襲名し、多治見村の村政や焼き物産業の振興に力を注いできました。江戸時代中期、当地方の幕府直轄地で生産される焼き物は尾張藩の一手販売の傘下にありました。しかし尾張藩を通じた販売では、荷代金回収の遅滞や多重にかかる手数料など美濃の生産者にとって不利益なことも多く、美濃独自の販路を築くために天保3年（1832）に後の3代圓治が中心となって江戸水揚会所設立運動を起こしました。その後、天保6年（1835）に美濃焼物取締所が多治見村に設置されると2代圓治がその取締役に就任し、幕府直轄地の美濃焼生産を取り締まり、販売窓口として活躍しました。

▼嘉永2年仲買鑑札
(西浦家文書・個人蔵)



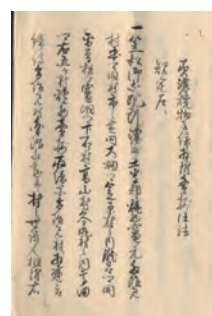
また西浦家は文政年間から美濃焼の独自の販売に着手しており、弘化3年

(1846)に大坂店、翌4年(1847)には江戸店を出店し、本州・四国のほとんどの

地域へ美濃焼を販売しました。さらに、明治時代になると3代圓治のうとうしやが濃陶社を設立し、また、美濃焼の生産も始めます。5代圓治は海外貿易を盛んにするなど美濃焼産業の発展に関与しました。

本展覧会では西浦家文書を中心に幕末、明治期の美濃焼の歴史を紹介すると共に、在地商人として江戸・大坂にも支店を開いた西浦家の商家としての歴史を紹介します。

▼西浦家歴代肖像(参考資料・個人蔵、写真提供 多治見市図書館郷土資料室)



▲天保6年美濃焼物取締規定
(西浦家文書・個人蔵)

関連講座情報

講演会 「西浦圓治と美濃焼物～古文書を中心に～」
日時 平成29年5月27日(土)14時～15時30分
場所 ヤマカまなびパーク7階多目的ホール
(多治見市豊岡町1-55)

講師 小木曾郁夫氏(多治見市文化財審議委員)
申込み 不要
参加費 無料

大針屋作7・8号窯発掘調査

場所：大針町字屋作 284 ほか

期間：平成 28 年 10 月 12 日～平成 29 年 1 月 16 日

面積：約 650 m²

大針屋作 7 号窯と 8 号窯は、大針町字屋作の山林内に所在した古窯跡です。民間会社の資材置き場造成に伴い、当センターが緊急発掘調査を行いました。2 基の窯は標高 143～160m の同じ南東向き斜面に築かれており、尾根近くから検出されたのが 7 号窯、谷近くから検出されたのが 8 号窯です。窯跡から谷に向けての斜面下方からは、不良品として廃棄された大量の遺物が出土しました。また、8 号窯の焚口を削る形で築かれた炭焼窯も検出されました。

調査の結果、7 号窯は全長 8.9m を測る地下式の窖窯で、出土遺物（山茶碗）の特徴から 12 世紀中葉（平安時代末期）に稼働したと推定されます。8 号窯は残存全長 3.7m を計測する半地下式の窖窯で、出土遺物（灰釉陶器）の特徴から 10 世紀前葉（平安時代中期）に稼働した窯であることが分かりました。また、炭焼窯は全長約 4.5m を計測し、周辺からの出土遺物から 15～16 世紀に稼働していたと考えられます。このように、当地区では、8 号窯→7 号窯→炭焼窯の順番で造営されたことが明らかとなりました。

▼ 大針屋作 7 号窯発掘状況



▼ 大針屋作 8 号窯発掘状況



中学生の職場体験

平成 28 年 10 月に南ヶ丘中学校 2 年生 3 名、小泉中学校 2 年生 4 名の職場体験を受け入れました。文化財保護センターでの職場体験は、まずセンターの活動について（1、指定文化財保護、2、埋蔵文化財調査、3、普及啓発）の説明をし収蔵庫や展示室の見学をしたあと、実際の活動を体験してもらっています。

4 日に行った南ヶ丘中の職場体験は、台風接近により残念ながら 1 日限りの体験となりました。この日は、10 月 9、10 日に開催された「たじみ茶碗まつり」に合わせて行った分室展示の展示作業と、遺物の拓本・実測図作成を体験しました。



▲ 縄文土器の拓本に挑戦！



▲ 出土遺物の実測図作成

小泉中の職場体験は 10 月 20、21 日に行いました。小泉中の生徒には、遺物の拓本や実測図作成の他、学芸員の体験として、展示キャプションを一から作成してもらいました。当センターが所蔵する民俗資料を実際に手にとって見ながら、その資料の使い方や時代背景などを調べて説明文を考える作業でしたが、何度も下書きを書き換えたり、わからない所も入念に調べたりして、それぞれ納得のいくキャプションを作っていました。



▲ キャプション作りの様子



▲ キャプション完成！

文化財防火デー関連

毎年 1 月 26 日は文化財防火デーで、全国的に文化財防火運動が行われます。多治見市でもこれに合わせ、市内の文化財防火点検と永保寺の防火訓練が行われました。

- ・文化財防火点検（1 月 16 日、24 日、25 日、2 月 7 日）
市内の文化財を所有する施設の立入点検を行いました。
文化財所有者の皆様、ご協力ありがとうございました。



立入点検の様子

防火訓練の様子



- ・永保寺防火訓練（2 月 5 日、9:00 ～）
「永保寺保寿院付近で林野火災が発生し、国宝建造物の観音堂・開山堂に延焼の危険あり」という想定の実演が行われました。消防関係者、永保寺自衛消防隊など約 100 名が参加しました。

平成 28 年度カワニナ生息数調査結果

カワニナの平均個体数・合計数とホタル合計生息数

(50cm × 50cm、H6 年、H7 年カワニナ平均個体数は、調査地点の一部の平均値)

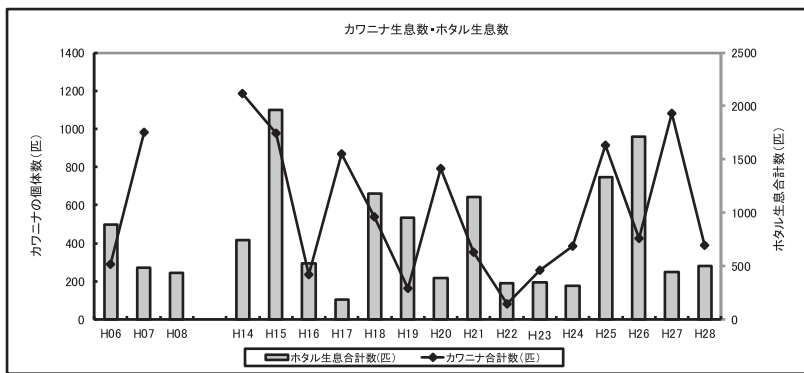
	H06	H07	H08	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
カワニナ合計数(匹)	290	982		1187	979	234	870	538	165	791	353	80	260	385	915	426	1082	390
ホタル生息合計数(匹)	888	489	439	743	1963	529	189	1183	954	391	1149	338	345	313	1337	1709	449	498

※H8～13 年まではカワニナ調査なし。

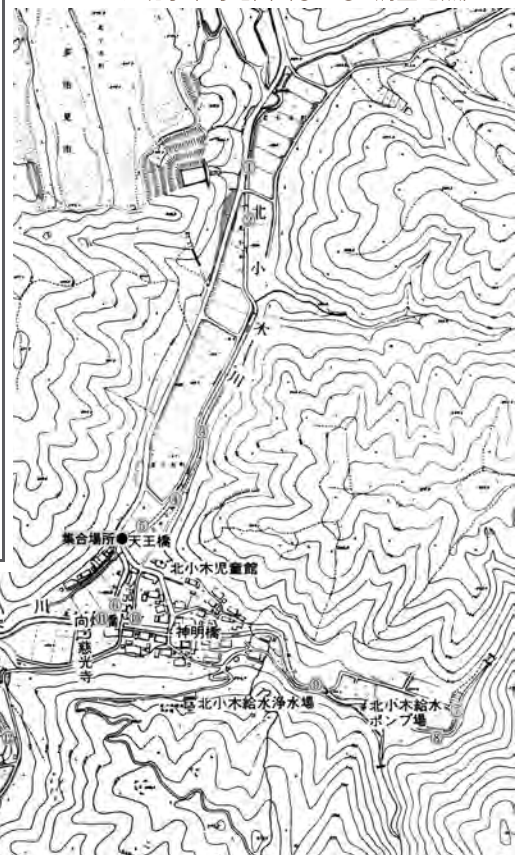
※H16 年以降のホタル数は三面張改修地点を含む。

※ はホタル大発生年のホタル数。 はホタル大発生の前年のカワニナ数。

※H22、23 年は護岸工事を行っている。



北小木町地図 (①～⑭: 調査地点)



文化財保護センターでは、市天然記念物である「北小木のホタル」の調査の一環として、毎年秋にホタルの幼虫のえさであるカワニナ（巻き貝の一種）の調査を行っています。今年度の調査は平成 28 年 10 月 2 日に、北小木川と神明洞川の計 14 地点でボランティアの皆様と一緒にを行いました。

昨年度はカワニナが非常に多く確認できましたが、今年度は昨年度の半分以下に減っていました。特に例年多く確認される北小木川・神明洞川合流地のの上流部 (①③⑥) と慈光寺裏の地点 (⑩) での生息数が大幅に減りました。このうち最上流部地点 (①) では半数以上が空のカワニナでした。

今年度は 8 月の目視で非常に多くのカワニナが確認されていたため、今回の調査でその生息数が多くなると期待されましたが、実際には減少するという結果になりました。これはカワニナ調査日前日に大雨が降ったことが影響している可能性があります。

これまでカワニナの生息数の増減に比例して、次の年のホタルが増減するという傾向にありました。しかし平成 27 年ではカワニナ数が非常に多かったにもかかわらず、次の年のホタル数はそれほど増加しませんでした。この後平成 29 年のホタル数はどう変化するのか興味深いです。今後も調査を続けていきデータを蓄積して、ホタルの保護に役立てていきたいと思っております。最後になりましたが、参加していただきました皆様には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

平成 28 年度文化財講座

高田史跡めぐり

開催日時：平成 28 年 9 月 24 日（土）9：30～12：00

多治見市文化財保護センターでは、「高田焼 400 年の歩み」展の美濃焼ミュージアムでの移動展にあわせて、高田・小名田の町歩きを行う「高田史跡めぐり」を開催しました。市外からの参加者もあり、また、おりベネットワークで散策の様子が放映されました。県重要無形文化財「志野」技術保持者・若尾利貞さんの工房では、特別に窯や作陶の部屋を見せていただきました。



▲ 高田陶祖碑



▲ 若尾利貞氏

散策ルート：共栄公園に集合→高田陶祖碑→大ザヤ古窯跡→陶人舎窯→小名田窯下窯跡
→【岐阜県重要無形文化財「志野」技術保持者】若尾利貞氏工房→高田のケヤキ

笠原の信仰と文化財

開催日時：平成 28 年 12 月 17 日（土）9：30～12：30

この講座は、平成 28 年 9 月 5 日から平成 29 年 2 月 9 日に開催した企画展「カミさまホトケさまお医者さま～医療と信仰～」の関連講座として実施しました。

講座は、はじめに土岐市妻木町の八幡神社禰宜はちまんじんじゃねぎで土岐市文化財審議会委員の黒田正直氏くろだただしに講演していただきました。笠原の歴史的な背景として妻木と笠原の関係から、「笠原の信仰と文化財」というテーマに合わせて笠原町内にあった廃寺はいじの歴史や信仰の形についてお話していただきました。この中では、廃寺の旧所有物が妻木町のお寺で見つかったという新事実などが紹介され、大変興味深い講演でした。

講演の後は笠原町内の信仰史跡や文化財を巡りました。笠原神明宮では、宮司さんに創建以来の歴史や指定文化財の陶製狛犬・手洗石についてお話をしていただき、陶製狛犬も間近に見ることができ、貴重な体験ができました。

散策ルート：陶ヶ丘公園にじゅうにやとう（廿二夜塔・陶祖碑）→釜区観音堂（十一面観音菩薩）・八龍神社ほちりゅう他→久六地藏→津島神社→狐塚古墳→笠原神明宮



▲ 講演の様子（笠原中央公民館）



▲ 久六地藏

〈利用案内〉

開館時間：9:00～17:00 休館日：土・日・祝日、年末年始
入場無料

〈交通案内〉

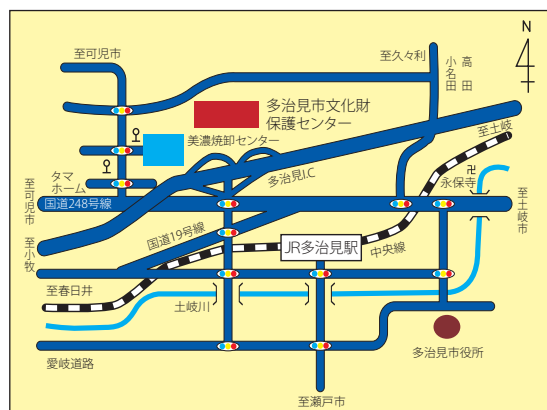
タクシー：多治見駅から約 20 分

バス：東鉄バス「美濃焼団地前」下車 徒歩 5 分

自然と人の文化

No.49 2017.3

編集／発行 多治見市文化財保護センター
〒507-0071
岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26
TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033
URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>



発行部数：1300 部（税抜 24,050 円）
この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。